

# まちなか雑木林の家

(まちなかぞうきばやしのおえ)

設計者 / 株式会社 小林建設一級建築設計事務所

施工者 / 株式会社 小林建設



## 設計主旨

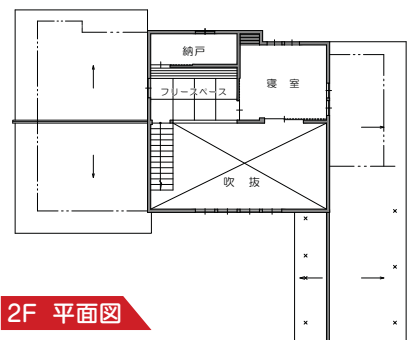
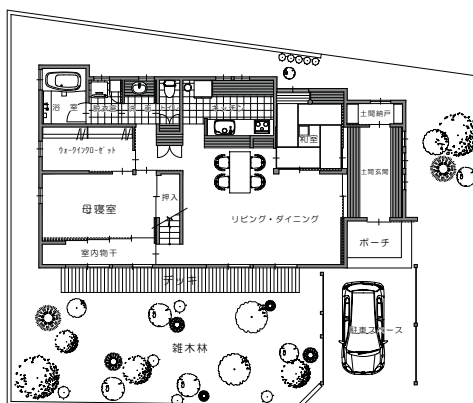
### CONCEPT

- ・都市計画道路の前橋・高崎線沿いで、ずっと住み続けてきた家の建て替え。終の棲家として、これからの人生も楽しく暮らしたいという要望に少しでも多く応えられるように、また、この家に暮らして良かったと思っていただけるような設計を目指し、携わった皆が協力しました。
- ・現況幅員 14 m の道路沿いで、ご近所も昔ながらの外構、いわゆるブロック塀で敷地を囲った家が多い。そんな中、お施主様は「まちなかでも、山に居るような雰囲気味わいたい。」と希望されたので、板塀で敷地を囲い、道路から見たときの優しい印象と家の中から見たプライベート空間を両立させ、山の原風景に近づけるべく雑木を植栽した。周辺を散歩する人々の目にも緑を見てもらえるような「まちなか雑木林」をつくった。
- ・自然の恵みである太陽と風を活かせるように、軒を深くし日射の調節。窓の配置を考慮して、冬の空気を防ぐために小さい窓で済む部屋を北西に配置した。夏は雑木林を抜けてきた爽やかな風が、「まちなか」である事を忘れさせてくれる。
- ・屋根を形成する県産材を使った大きな登り梁が、木造の建物の構造美を醸し出す。

- ・ポーチ、アプローチを兼ねた駐車スペースに屋根を設けて雨の日でも慌てず出入り出来て、荷物を運んだりするにも便利にした。
- ・玄関は広めの土間玄関にして、来客にも好印象を与えられるようにいろいろな素材を使い、仕上げでも工夫した。リビングにつながっているため、冬は風除室として扉を閉ざし、夏は開放して広々と使うことが出来き、東からの風が心地よく入ってくる。
- ・大きな吹抜けのリビング空間には、大工が造った手作りのペンダント照明、断熱性を向上させる太鼓貼りの障子で雰囲気を演出。照明は LED、障子は太鼓貼りにすることによって断熱性が向上し、省エネになる。南側の掃出し窓の上に高窓と 2 階の窓を開けると、吹抜けから 2 階への空気の流れが生まれ、熱気抜きが出来るようになっている。
- ・リビングから各部屋へ引戸でつながっている為、開けっ放しでも邪魔にならず、通風を確保できる。廊下としての仕切りがないので、家中の温度差が少ない。
- ・趣味の茶道をするために茶室をつくった。追求すればするほど難しい茶室だが、お施主様とお話をしながらひとつひとつ決めて、この家ならではの茶室が出来上がった。滅多に無い茶室に、大工も悩みながらも楽しそうにつくりあげていった。
- ・同居される母親のために、縁側を介して南に面した部屋をつくった。水まわり、クローゼットを近くに配置し、リビングに来客中でも裏動線で行き来を可能にした。いずれ世代交代がきたらご夫婦が使える。キッチンと水まわりも隣接させたので、家事動線も良くなっている。
- ・縁側の窓には通風雨戸を設置した。防犯しながら風を入れられる。共働きのご夫婦の為、縁側を室内物干し場としても活用する予定。
- ・ユニットバスの採用が多い昨今だが、床は十和田石、壁と天井にはヒバの板を張って、お風呂を造作した。家に居ながら、ちょっとした温泉気分が味わえる。
- ・日射量の多い群馬県の地域性を活かし、太陽光発電を設置。冬は太陽熱を利用して暖房する OMソーラーシステムを採用した。



1F 平面図



2F 平面図